

播磨町 人口の現状分析

目次

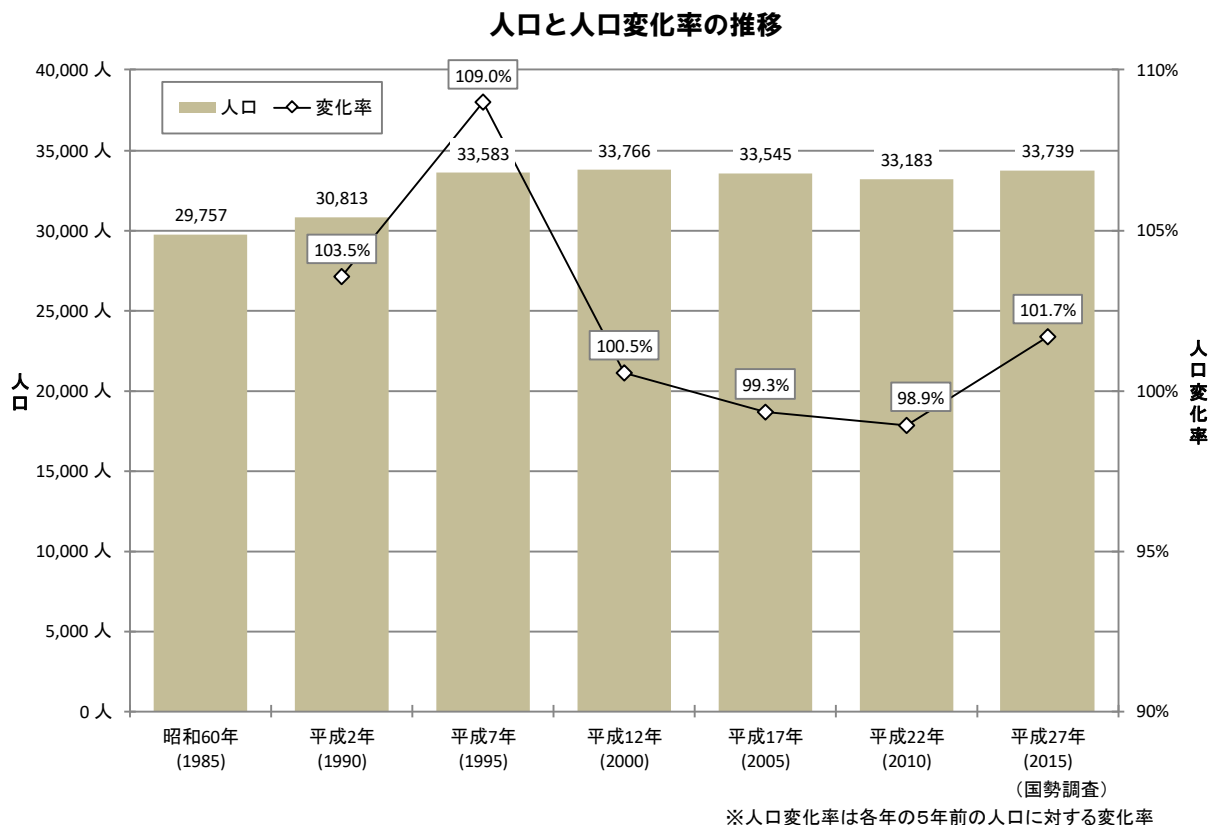
- 1. 人口の推移 2
 - ①長期的な人口の推移 2
- 2. 性別・年齢別人口動向 3
 - ①年齢3区分別人口の推移 3
 - ②性別の人口の変化 4
- 3. 自然動態・社会動態の状況 6
 - ①自然動態 6
 - ②社会動態 6
- 4. 出生・死亡の状況 7
 - ①出生の状況 7
 - ②結婚の状況 8
 - ③死亡の状況 8
- 5. 移動の状況 9
 - ①性別・年齢別の移動の状況 9
 - ②地域間移動の状況 10
- 6. その他の分析 11
 - ①通勤・通学の状況 11
 - ②産業の状況 12
 - ③財政 15

1. 人口の推移

①長期的な人口の推移

○播磨町の総人口は、平成7年以降ほぼ横ばいで推移し、平成27年では33,739人となっています。これは、昭和60年以降の30年間で、平成12年の33,766人に次いで多い人口となります。

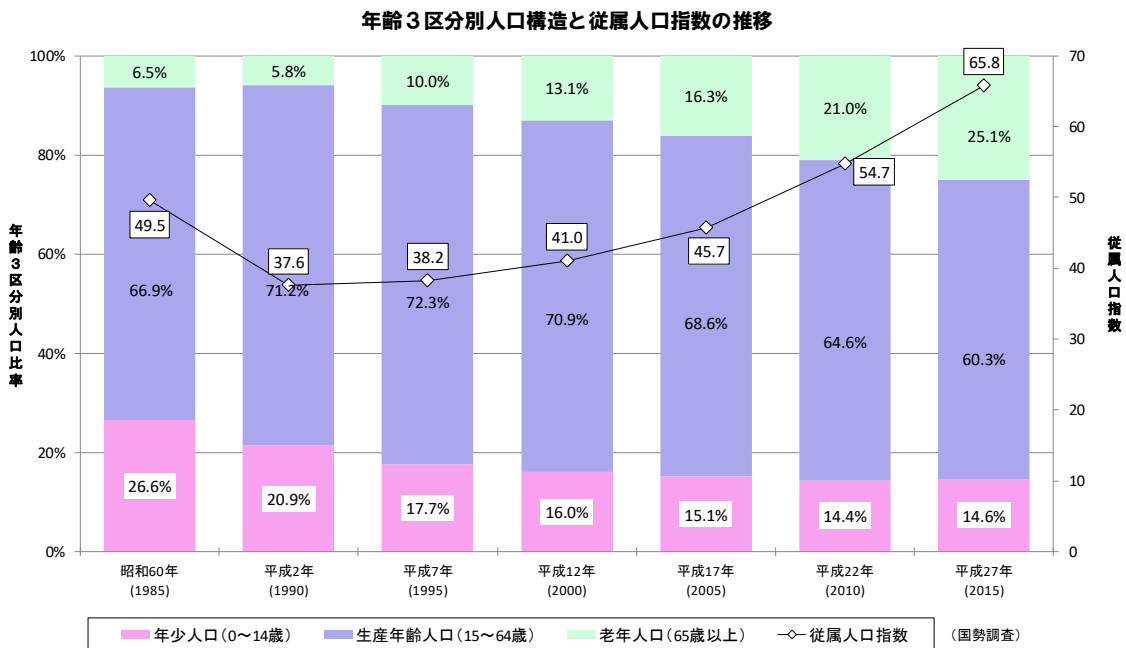
○平成22年の人口に対する変化率は、101.7%となっています。



2. 性別・年齢別人口動向

①年齢3区分別人口の推移

- 年齢3区分別の人口構造の推移についてみると、老年人口が昭和60年の6.5%から平成27年には25.1%と30年間で18.6ポイント増加している一方で、年少人口は26.6%から14.6%と12.0ポイント減少しています。老年人口の割合は、特に平成17年から約9ポイント増加しており、10年間で急速な少子高齢化が進行していることがわかります。
- 生産年齢人口100人が、年少人口と老年人口を何人支えているかを示す比率である従属人口指数は、昭和60年の49.5から平成27年には65.8まで増加しています。



(人)

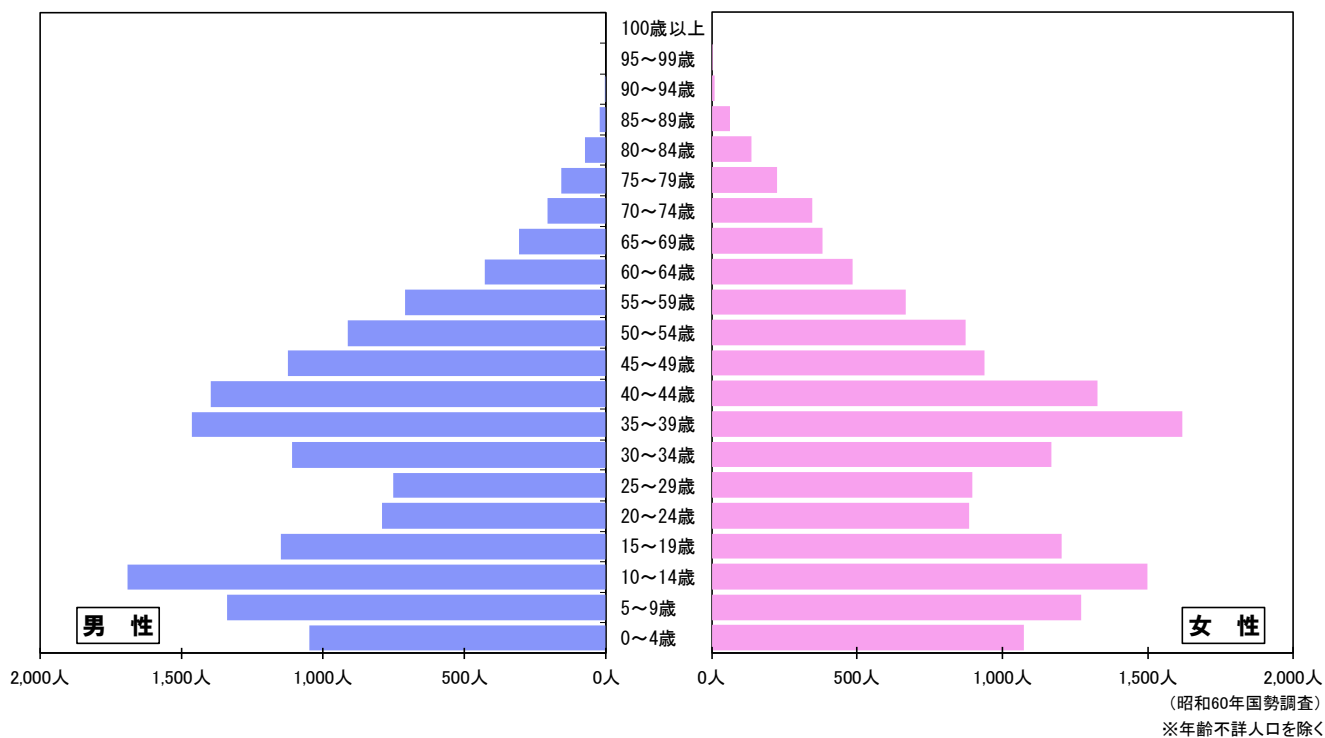
		昭和60年(1985)	平成2年(1990)	平成7年(1995)	平成12年(2000)	平成17年(2005)	平成22年(2010)	平成27年(2015)	
人口	年少人口	0~4歳	2,122	1,654	1,780	1,667	1,501	1,391	1,615
		5~9歳	2,612	2,167	1,867	1,799	1,759	1,604	1,644
		10~14歳	3,187	2,630	2,285	1,949	1,803	1,769	1,674
		計	7,921	6,451	5,932	5,415	5,063	4,764	4,933
	生産年齢人口	15~19歳	2,351	3,007	2,574	2,171	1,840	1,748	1,732
		20~24歳	1,677	2,081	2,885	2,283	1,988	1,735	1,649
		25~29歳	1,649	1,793	2,436	2,733	2,229	1,897	1,701
		30~34歳	2,277	1,741	2,102	2,363	2,706	2,182	1,966
		35~39歳	3,081	2,356	1,960	2,112	2,309	2,651	2,352
		40~44歳	2,726	3,089	2,491	1,999	2,055	2,267	2,728
		45~49歳	2,064	2,703	3,208	2,440	1,960	1,949	2,256
		50~64歳	4,074	5,165	6,638	7,829	7,934	7,005	5,935
	計	19,899	21,935	24,294	23,930	23,021	21,434	20,319	
老年人口	65~74歳	1,243	1,325	2,190	2,900	3,440	4,277	5,042	
	75歳以上	694	468	1,167	1,508	2,019	2,679	3,399	
	計	1,937	1,793	3,357	4,408	5,459	6,956	8,441	
年齢不詳		0	0	0	13	2	29	46	
総人口		29,757	30,813	33,583	33,766	33,545	33,183	33,739	
構成比	年少人口 0~14歳	26.6%	20.9%	17.7%	16.0%	15.1%	14.4%	14.6%	
	生産年齢人口 15~64歳	66.9%	71.2%	72.3%	70.9%	68.6%	64.6%	60.3%	
	老年人口 65歳以上	6.5%	5.8%	10.0%	13.1%	16.3%	21.0%	25.1%	

(国勢調査)

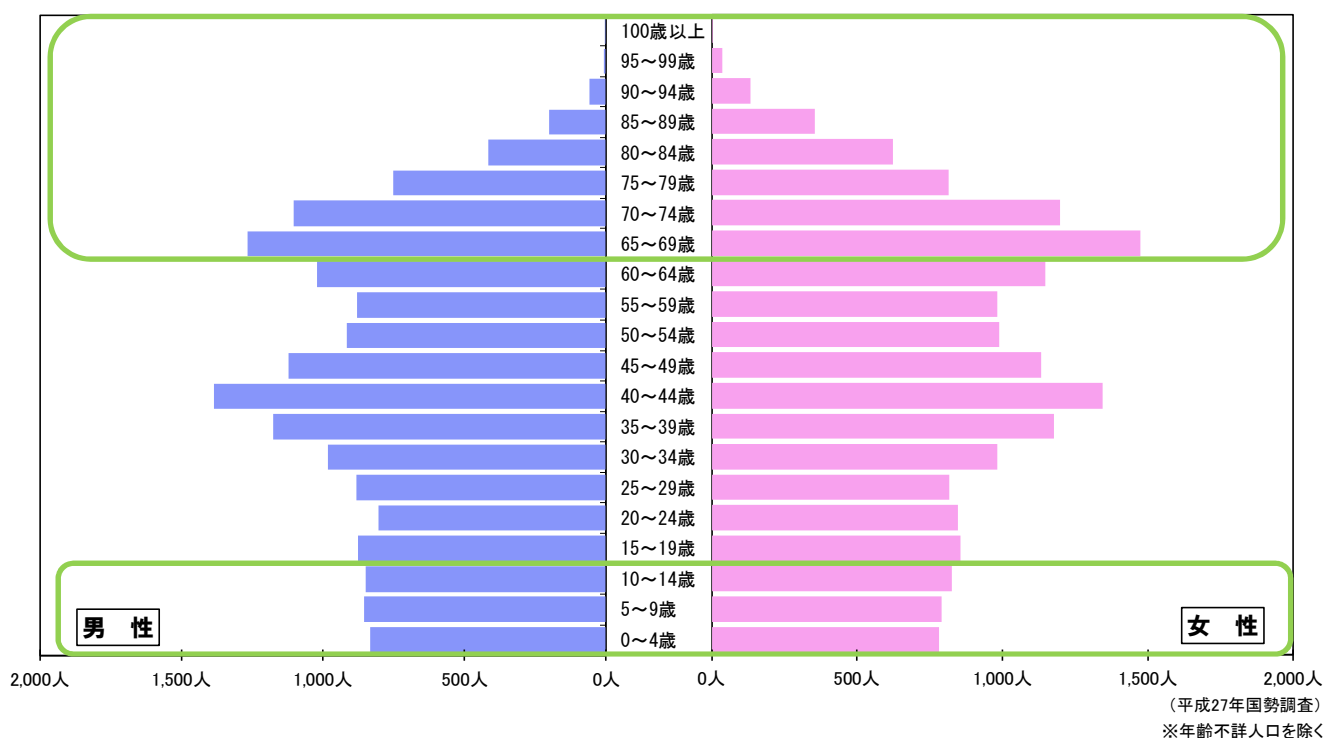
②性別の人口の変化

○昭和60年と平成27年の播磨町の5歳階級別の人口構造を比較すると、昭和60年では若い世代を中心に膨らみをもつ“星型”であったのに対し、平成27年では団塊の世代が65歳以上となったことにより老年人口が増加し、年少人口は減少した“つぼ型”に変化していることがわかります。

播磨町の5歳階級別人口構造（1980⇒2015）



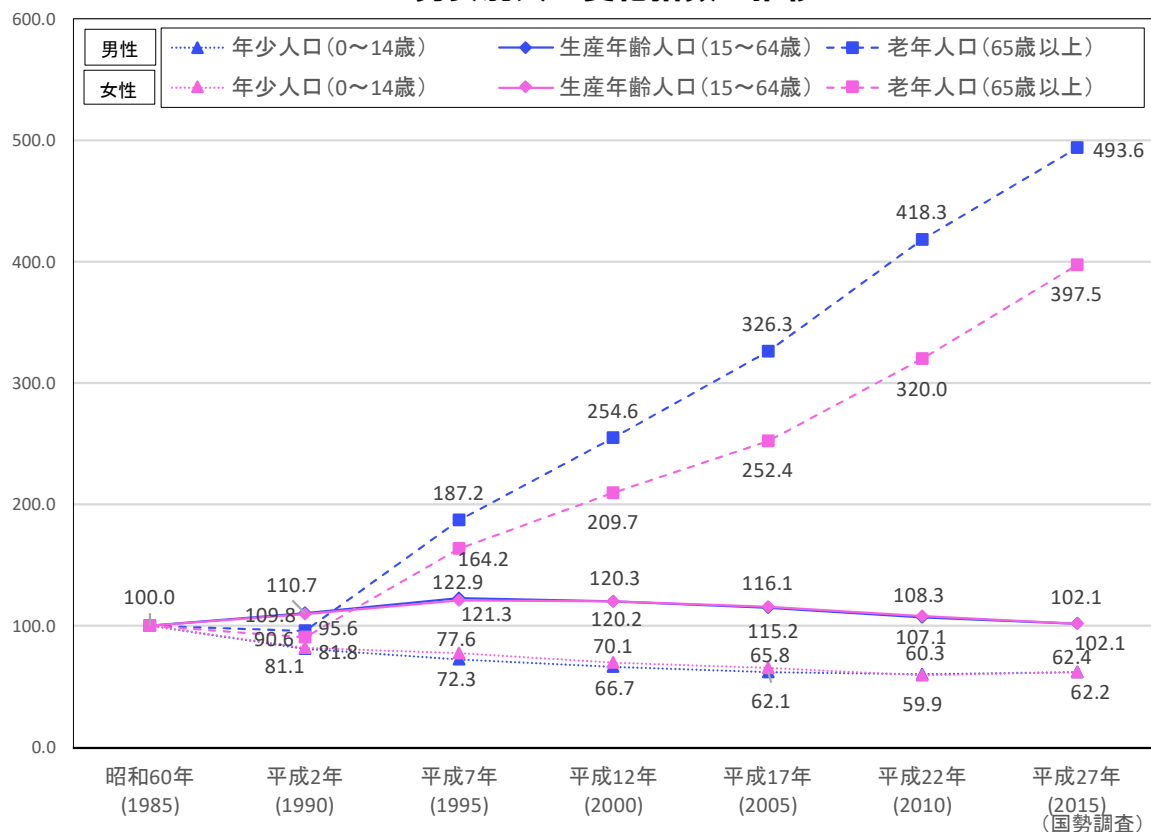
年少人口は減少、老年人口が増加



○昭和60年の人口を100とした場合の男女別の変化指数をみると、平成27年の総数は男性が111.6、女性が114.8となり、女性がわずかに上回っています。

○平成27年の老年人口の変化指数をみると、男性が493.6、女性は397.5と、男性が大きく上回っており、女性に比べ、男性の高齢化が進行していることがわかります。

男女別人口変化指数の推移



(単位:人)

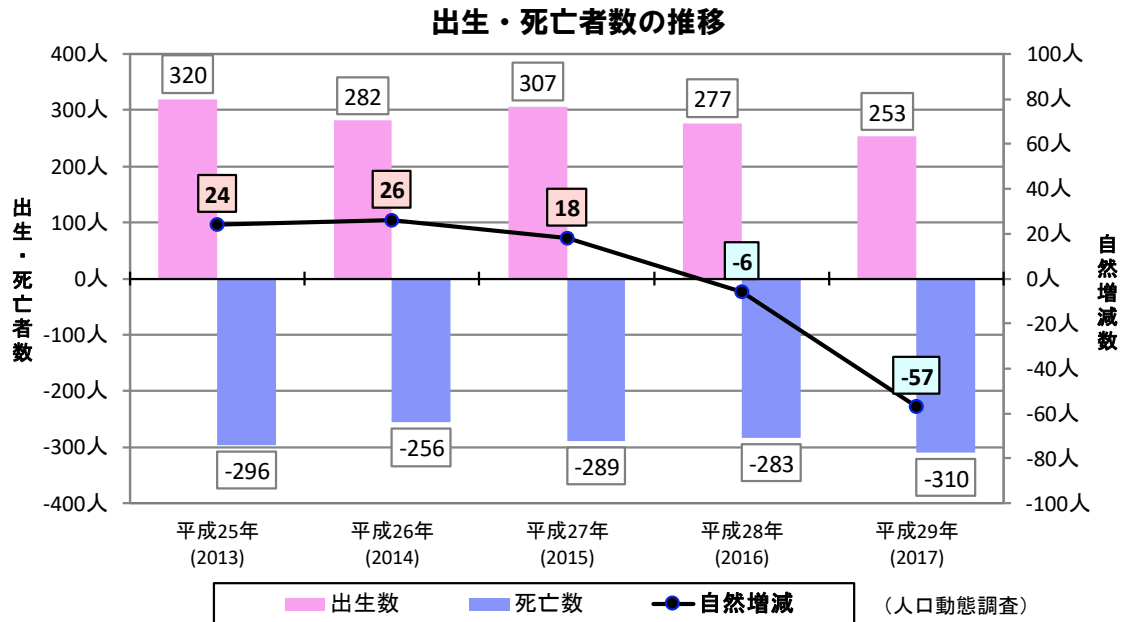
		昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)
男性	人口	総数	14,684	14,933	16,476	16,505	16,385	16,219
		0~14歳	4,076	3,306	2,948	2,719	2,532	2,459
		15~64歳	9,837	10,890	12,085	11,823	11,337	10,535
		65歳以上	771	737	1,443	1,963	2,516	3,225
	変化指数	総数	100.0	101.7	112.2	112.4	111.6	110.5
		0~14歳	100.0	81.1	72.3	66.7	62.1	60.3
		15~64歳	100.0	109.8	122.9	120.2	115.2	107.1
女性	人口	総数	15,073	15,246	17,107	17,248	17,158	16,935
		0~14歳	3,845	3,145	2,984	2,696	2,531	2,305
		15~64歳	10,062	11,045	12,209	12,107	11,684	10,899
		65歳以上	1,166	1,056	1,914	2,445	2,943	3,731
	変化指数	総数	100.0	101.1	113.5	114.4	113.8	112.4
		0~14歳	100.0	81.8	77.6	70.1	65.8	59.9
		15~64歳	100.0	109.8	121.3	120.3	116.1	108.3
	65歳以上	100.0	90.6	164.2	209.7	252.4	320.0	

(国勢調査)

3. 自然動態・社会動態の状況

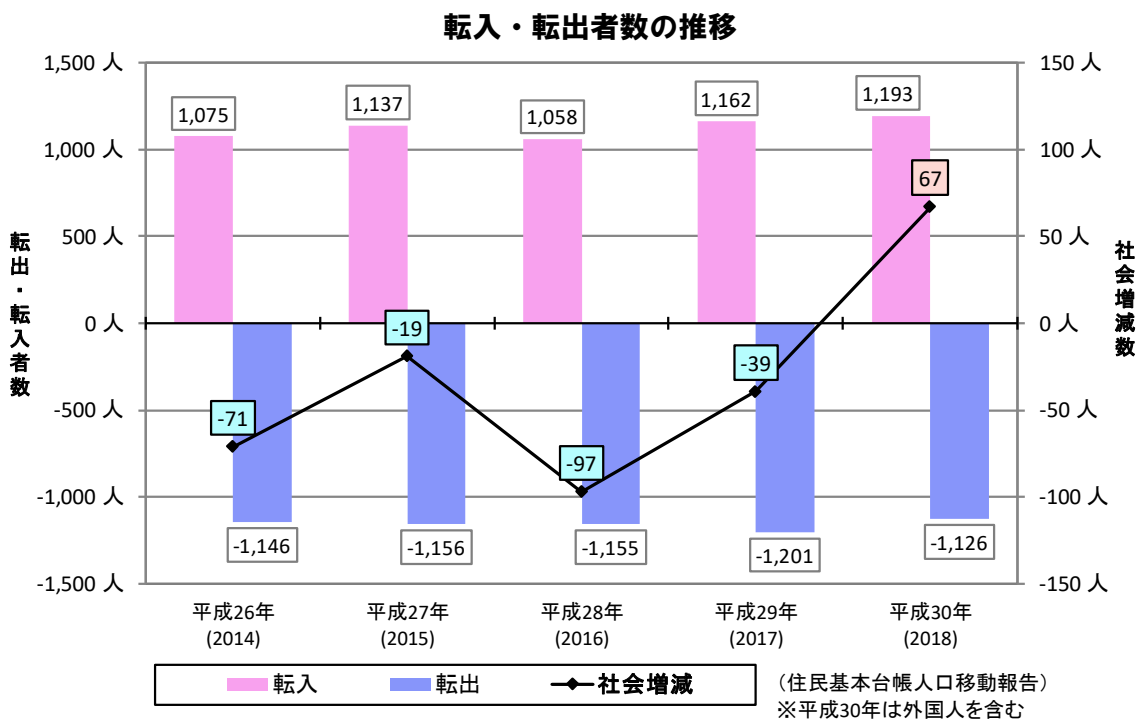
①自然動態

○平成25～29年の5年間の出生・死亡者数の推移をみると、平成28年以降自然減に転じており、平成29年は過去5年間で出生数は最も少ない253人である一方、死亡者数は最も多い310人となり、自然増減は-57人となっています。



②社会動態

○平成26～30年の5年間の転入・転出者数をみると、平成30年は過去5年間で転入者数は最も多い1,193人である一方、転出者数は最も少ない1,126人となり、67人の社会増に転じています。

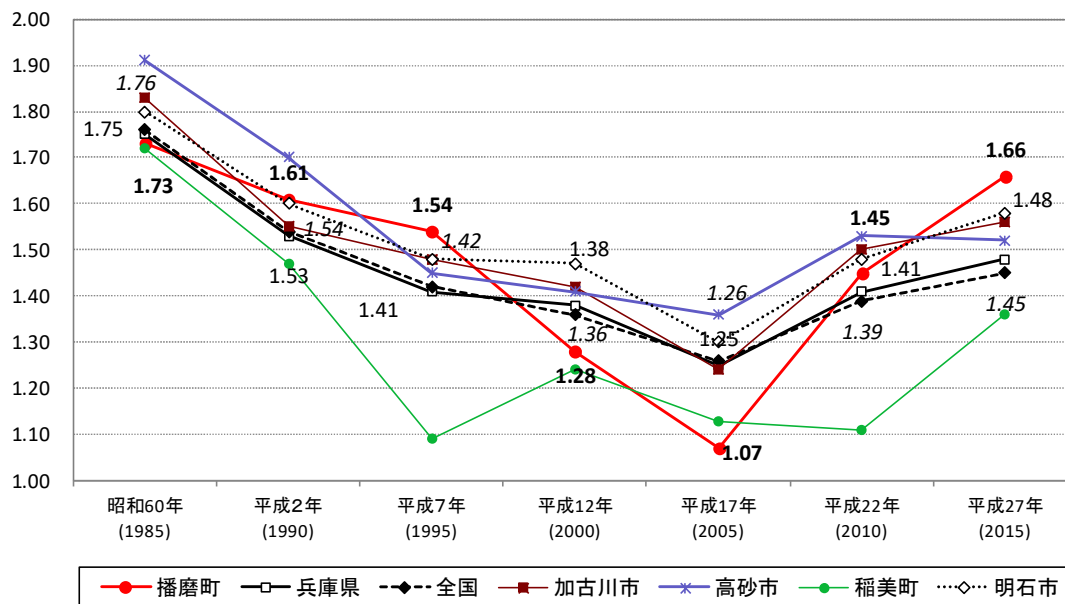


4. 出生・死亡の状況

①出生の状況

○昭和60年～平成27年の合計特殊出生率の推移をみると、播磨町は平成17年までは、減少傾向となっており、平成17年には、全国や兵庫県、周辺市町に比べ低い1.07まで減少していましたが、平成22年以降は回復し、平成27年には1.66となり、全国や兵庫県、周辺市町に比べ高くなっています。

合計特殊出生率の推移

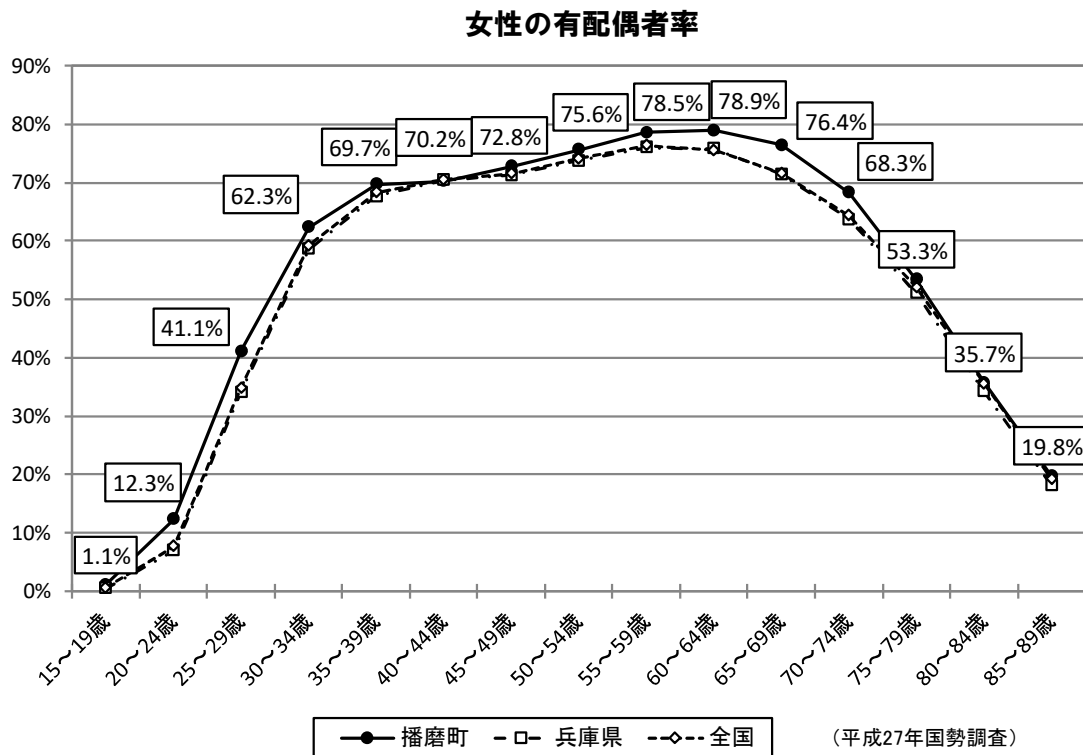


	昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)
播磨町	1.73	1.61	1.54	1.28	1.07	1.45	1.66
兵庫県	1.75	1.53	1.41	1.38	1.25	1.41	1.48
全国	1.76	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.45
加古川市	1.83	1.55	1.48	1.42	1.24	1.50	1.56
高砂市	1.91	1.70	1.45	1.41	1.36	1.53	1.52
稲美町	1.72	1.47	1.09	1.24	1.13	1.11	1.36
明石市	1.80	1.60	1.48	1.47	1.30	1.48	1.58

※全国、兵庫県：厚生労働省の公表
市町村：兵庫県情報事務センターの算出

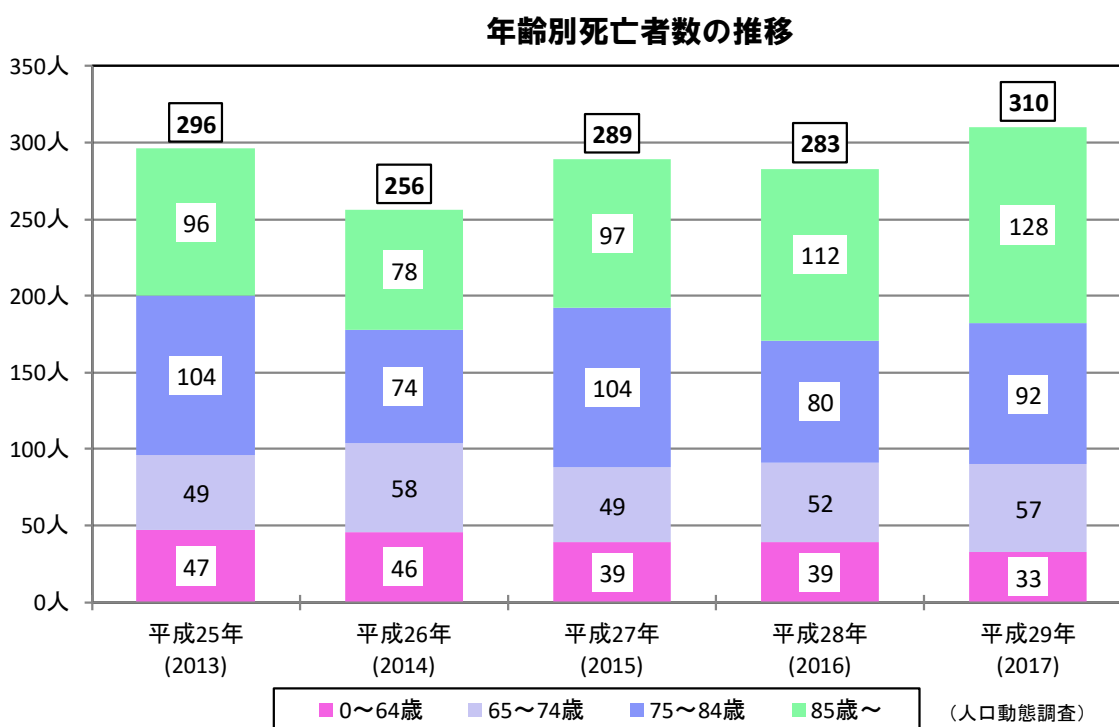
②結婚の状況

- 我が国では出産の多くが嫡出子であることから、とりわけ 15～49 歳の女性の有配偶率が高いことが出生数に影響すると考えられます。
- 播磨町の 15～49 歳までの女性の有配偶率をみると、“40～44 歳”を除き、全国、兵庫県よりやや高くなっています。



③死亡の状況

- 平成 25～29 年の 5 年間の年齢別死亡者数をみると、平成 25 年と 27 年は“75～84 歳”、平成 26 年と 28 年以降は“85 歳～”が最も多くなっています。

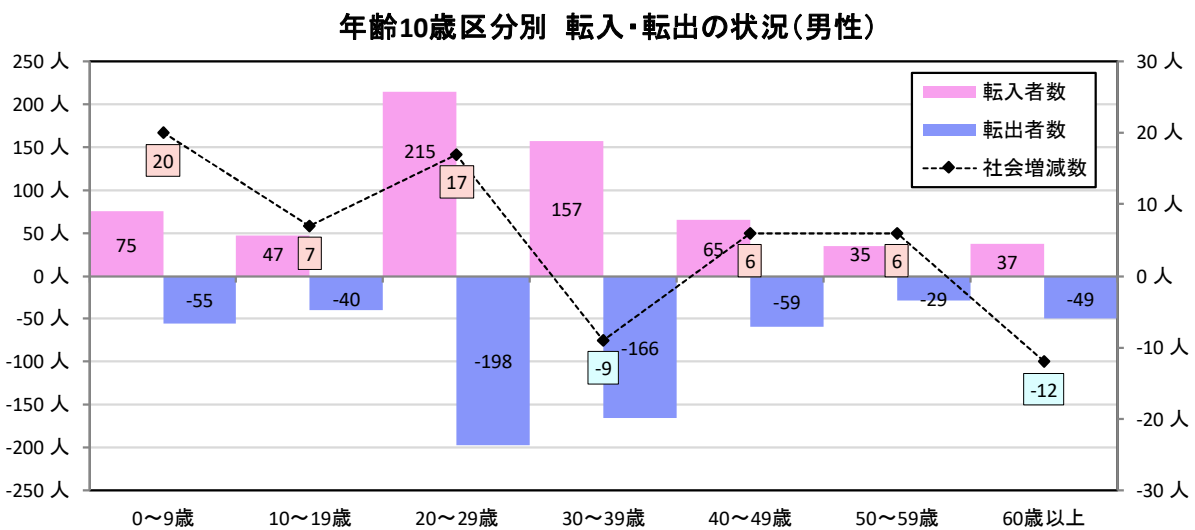


5. 移動の状況

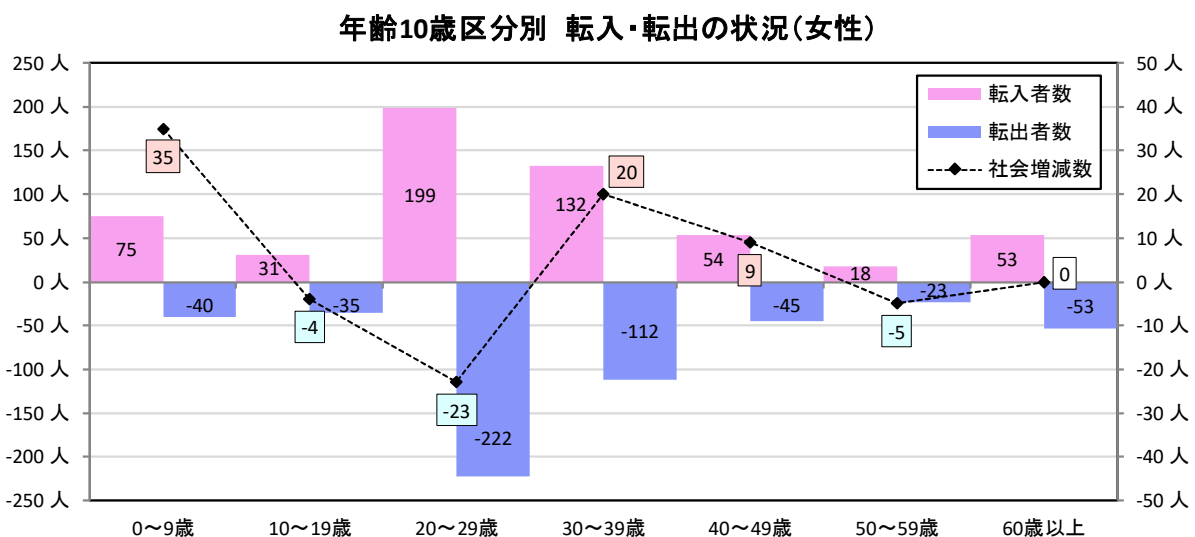
①性別・年齢別の移動の状況

○平成30年の転入・転出の状況について、性別・年齢10歳区分別にみると、男女ともに0～9歳と、進学、就職、結婚等の移動を伴うライフイベントが要因と考えられる20～39歳の移動が中心となっていることがわかります。

○男性では“20～29歳”が17人、“30～39歳”が-9人であるのに対し、女性では“20～29歳”が-23人、“30～39歳”が20人となっています。



(平成30年住民基本台帳人口移動報告※外国人含む)

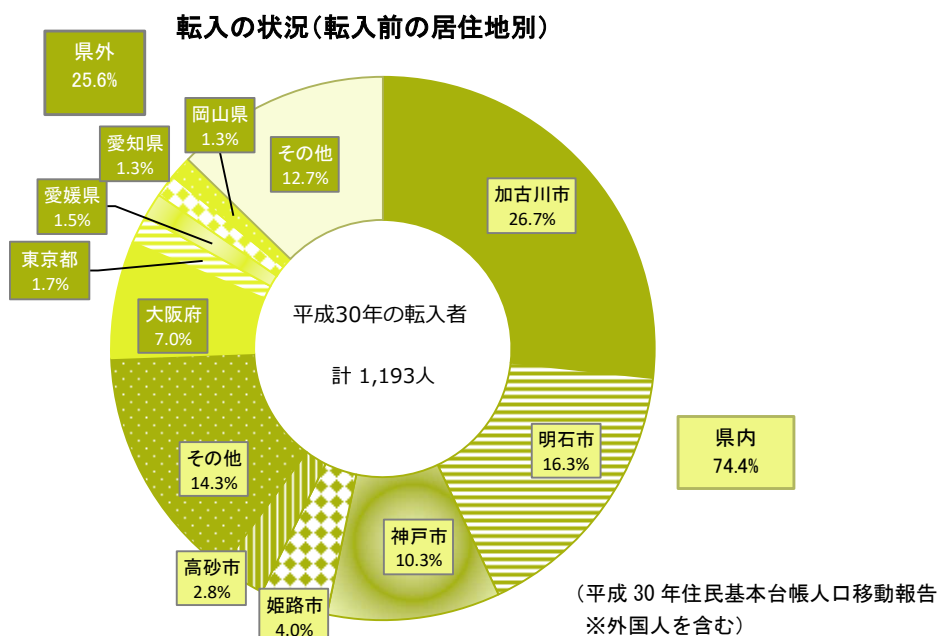


(平成30年住民基本台帳人口移動報告※外国人含む)

②地域間移動の状況

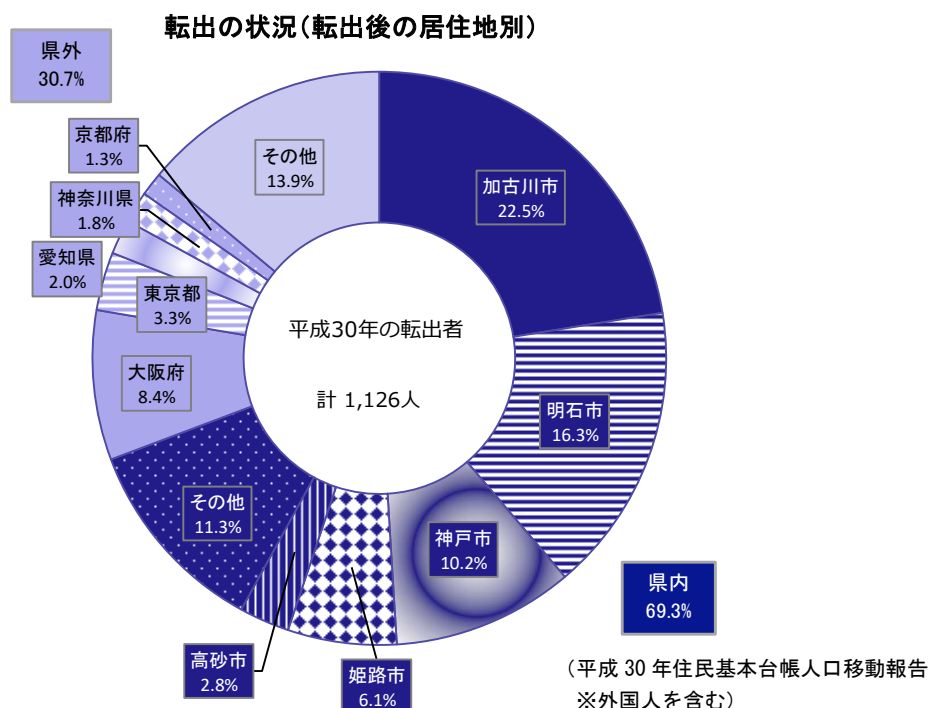
○平成 30 年の播磨町への転入の状況を転入前の居住地別にみると、県内では加古川市が最も多く、全体の 26.7%を占めています。次いで明石市 16.3%、神戸市 10.3%の順に多くなっています。

○全体の 3 割弱が県外からの転入となり、最も多いのが大阪府で全体の 7.0%を占めています。



○平成 30 年の播磨町からの転出の状況を転出後の居住地別にみると、県内では加古川市が最も多く、全体の 22.5%を占めています。次いで、明石市 16.3%、神戸市 10.2%の順に多くなっています。

○全体の約 7 割が県内、約 3 割が県外への転出となり、県外では大阪府が 8.4%で最も多くなっています。



6. その他の分析

①通勤・通学の状況

○平成27年の町内常住の就業者・通学者16,815人の従業・通学地についてみると、町内が4,470人(26.6%)、他市町村が12,345人(73.4%)となっています。

○町内常住の就業者・通学者の他市町村への通勤・通学先は、加古川市が最も多く3,316人(26.9%)、次いで明石市2,690人(21.8%)、神戸市2,563人(20.8%)となっています。

○他市町村常住の就業者・通学者で、播磨町に通勤・通学している人7,317人についてみると、加古川市から通勤・通学している人が3,076人(42.0%)で最も多く、次いで明石市1,718人(23.5%)、神戸市734人(10.0%)となっています。

町内常住の就業者・通学者の従業・通学地(及び他市町村からの通勤・通学状況)

区分	町内		他市町村		計
	自宅で従業・通学	自宅外で従業・通学	県内の他市町村で従業・通学	県外の他市町村で従業・通学	
男	449	1,858	6,683	581	9,571
女	328	1,835	4,873	208	7,244
小計	777	3,693	11,556	789	
計	4,470 26.6%		12,345 73.4%		16,815

※不詳を除く

区分	播磨町から他市町村へ				他市町村から播磨町へ				
	総数	構成比	就業者	通学者	総数	構成比	就業者	通学者	
総数	12,345	100.0%	10,980	1,365	7,317	100.0%	6,798	519	
県内	加古川市	3,316	26.9%	3,049	267	3,076	42.0%	2,742	334
	明石市	2,690	21.8%	2,568	122	1,718	23.5%	1,692	26
	神戸市	2,563	20.8%	2,147	416	734	10.0%	731	3
	高砂市	836	6.8%	702	134	581	7.9%	504	77
	姫路市	772	6.3%	696	76	412	5.6%	412	0
	稲美町	638	5.2%	559	79	377	5.2%	298	79
	三木市	158	1.3%	155	3	59	0.8%	59	0
	西宮市	132	1.1%	71	61	28	0.4%	28	0
	小野市	93	0.8%	92	1	43	0.6%	43	0
	尼崎市	86	0.7%	78	8	22	0.3%	22	0
	その他	272	2.2%	241	31	166	2.3%	166	0
計	11,556	93.6%	10,358	1,198	7,216	98.6%	6,697	519	
県外	大阪府	578	4.7%	459	119	53	0.7%	53	0
	その他	158	1.3%	114	44	48	0.7%	48	0
計	736	6.0%	573	163	101	1.4%	101	0	
不詳	53	0.4%	49	4	0	0.0%	0	0	

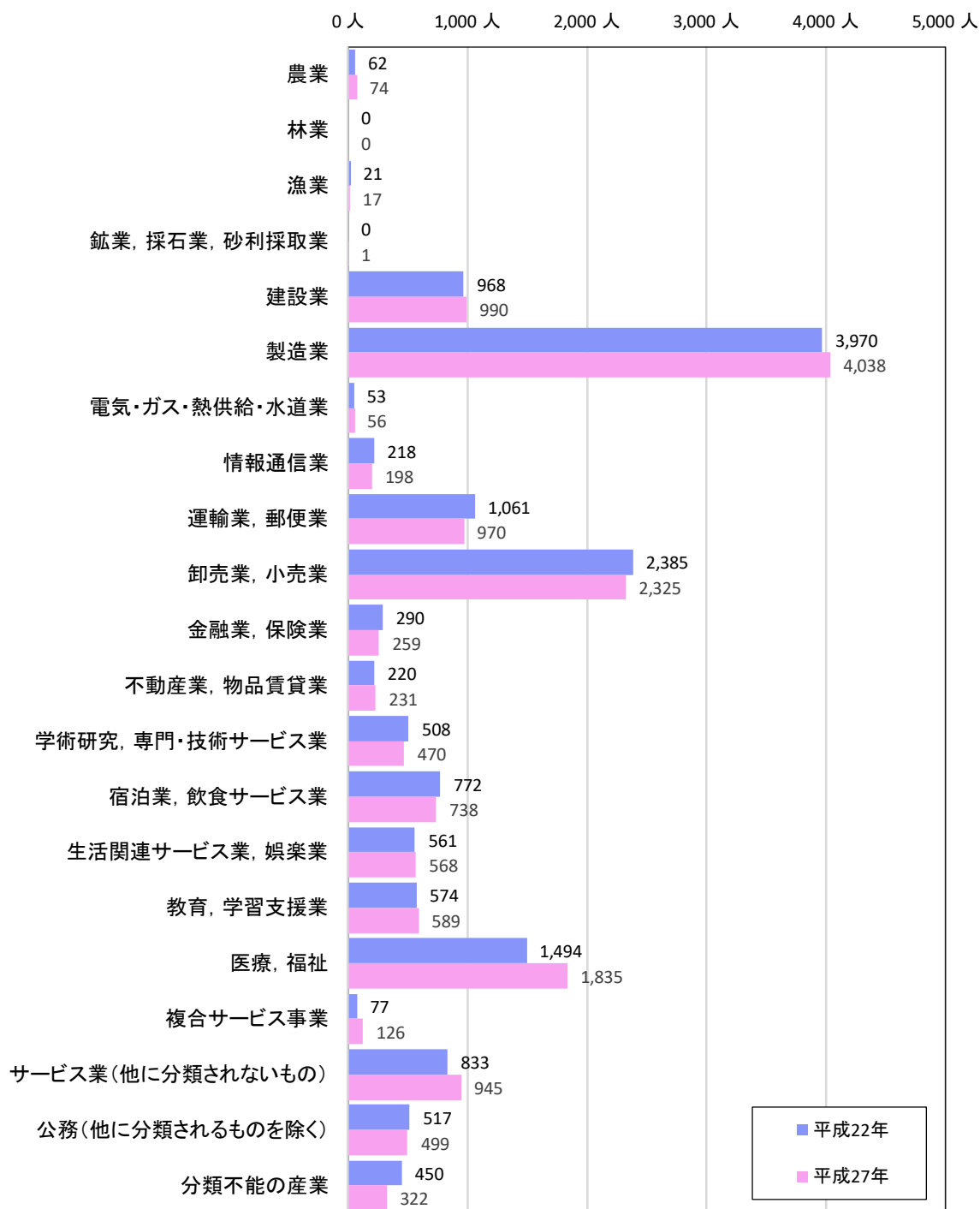
(平成27年,国勢調査)

②産業の状況

○平成 27 年の産業大分類別就業者人口についてみると、最も就業者人口の多い産業は“製造業”（4,038 人）となり、次いで“卸売業、小売業”（2,325 人）、“医療、福祉”（1,835 人）となっています。

○平成 22 年と比較して、就業者人口が最も増えたのは“医療、福祉”で 341 人増、最も減ったのは“分類不能の産業”で 128 人減となっています。

産業大分類別就業者人口の推移

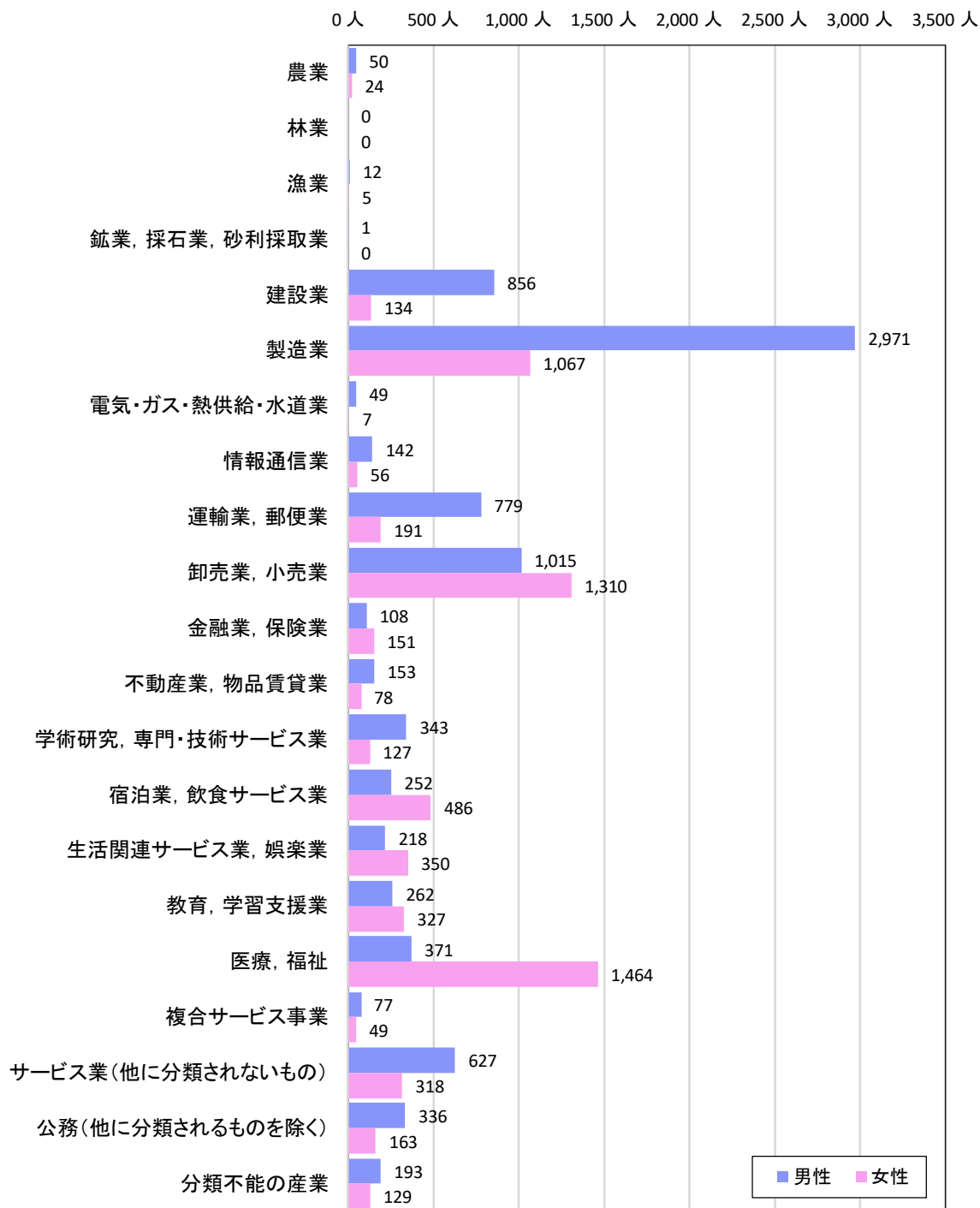


(国勢調査)

○また、平成27年の男女別就業人口をみると、男性で最も多いのは“製造業”、次いで“卸売業、小売業”、“建設業”の順となっています。

○女性で最も多いのは“医療、福祉”、次いで“卸売業、小売業”、“製造業”の順となっています。

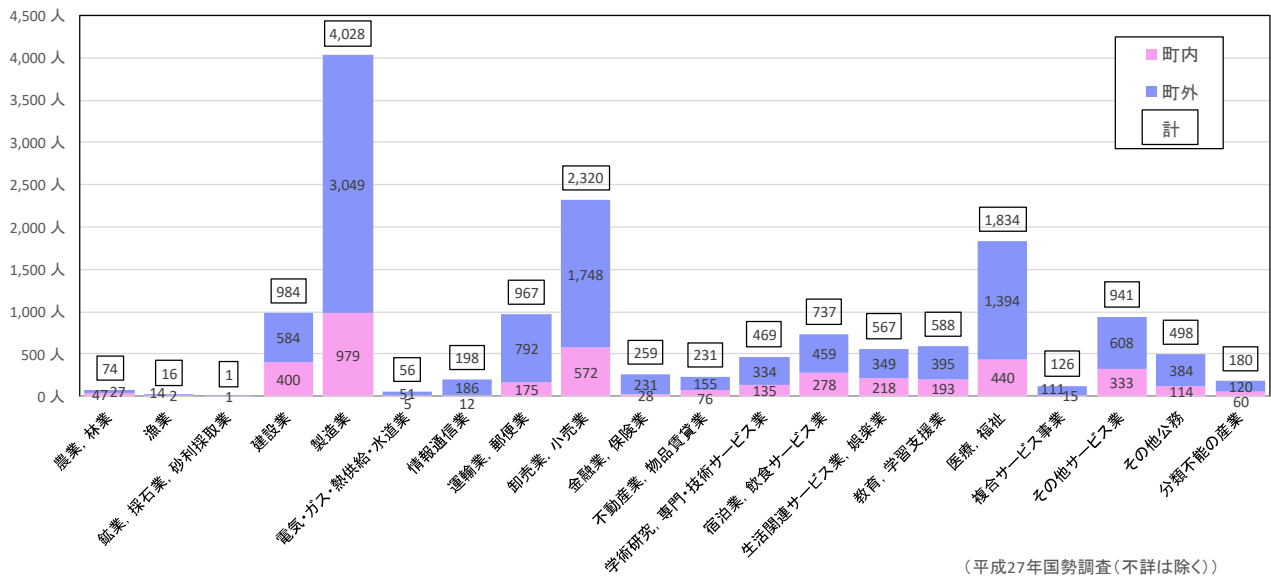
男女別就業者人口



(平成27年国勢調査)

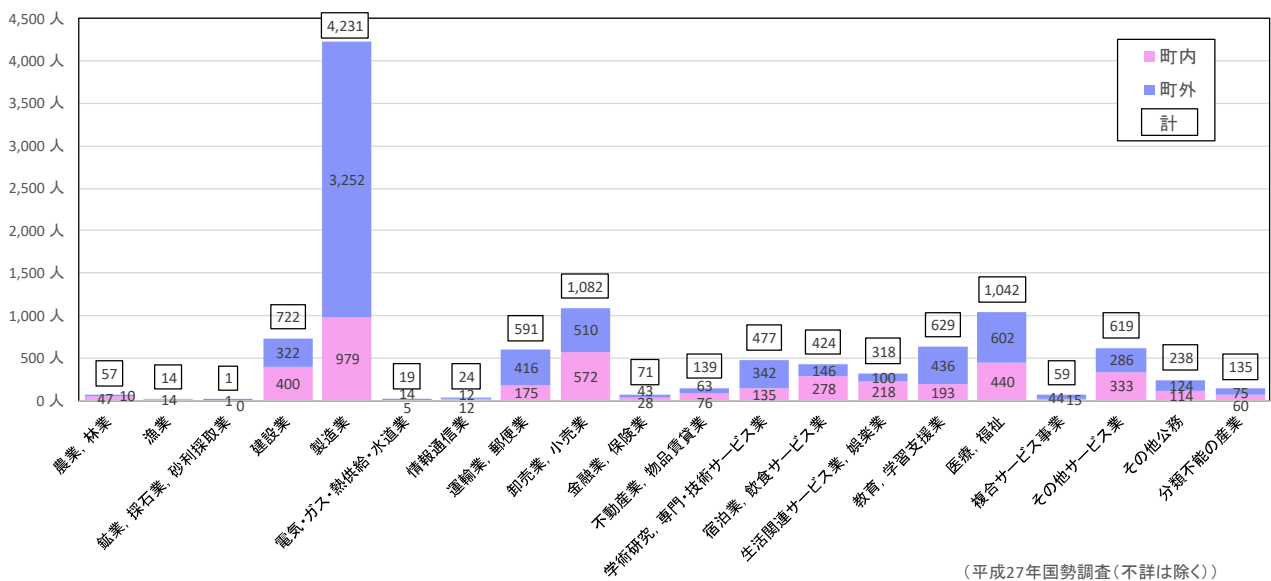
○町内常住の就業者の就業先について、就業者の多い上位3つの産業についてみると、“製造業”“卸売業、小売業”“医療、福祉”の3つとも7割以上が町外で従業しています。

産業大分類別町内常住の就業者



○また、平成27年の町内従業の就業者数について産業大分類別にみると、町内常住の就業者数と同じく、“製造業”が最も多く4,231人、そのうち町外常住の就業者は3,252人(76.9%)となっています。次いで、“卸売業、小売業”が1,082人で、そのうち町外常住の就業者は510人(47.1%)となっています。

産業大分類別町内従業の就業者



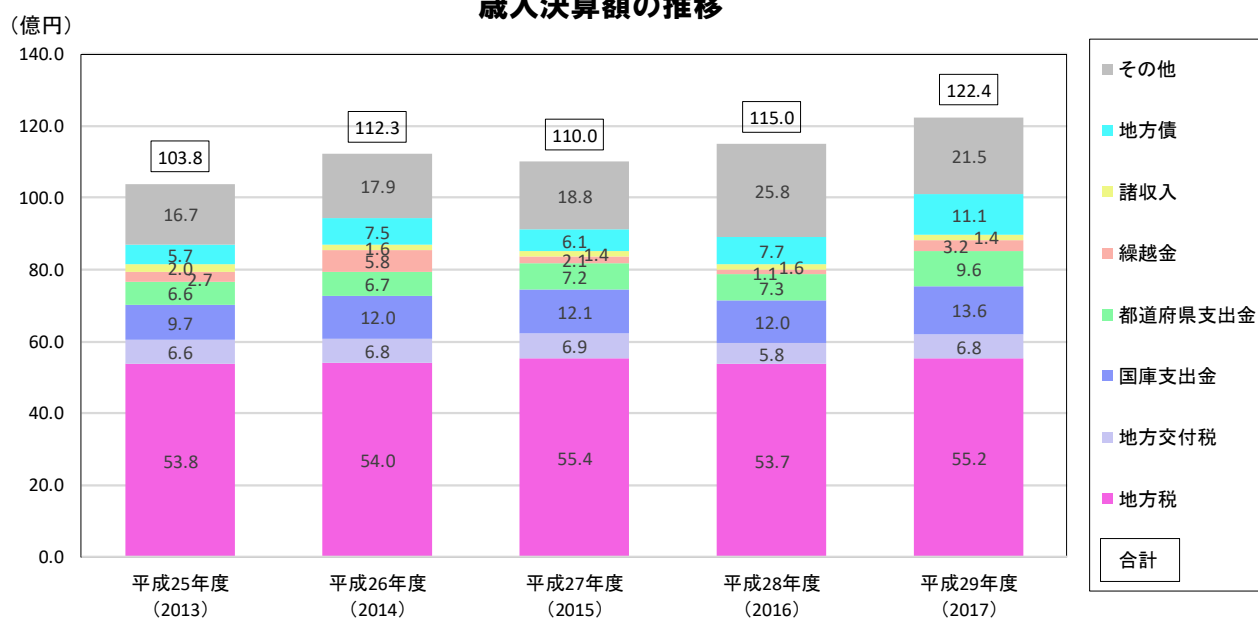
③財政

【歳入】

○平成 25～29 年の歳入決算額の推移をみると、平成 27 年以降増加しており、平成 29 年では 122.4 億円となっています。

単位：億円	平成25年度 (2013)	平成26年度 (2014)	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)
合計	103.8	112.3	110.0	115.0	122.4
地方税	53.8	54.0	55.4	53.7	55.2
地方交付税	6.6	6.8	6.9	5.8	6.8
国庫支出金	9.7	12.0	12.1	12.0	13.6
都道府県支出金	6.6	6.7	7.2	7.3	9.6
繰越金	2.7	5.8	2.1	1.1	3.2
諸収入	2.0	1.6	1.4	1.6	1.4
地方債	5.7	7.5	6.1	7.7	11.1
その他	16.7	17.9	18.8	25.8	21.5

歳入決算額の推移

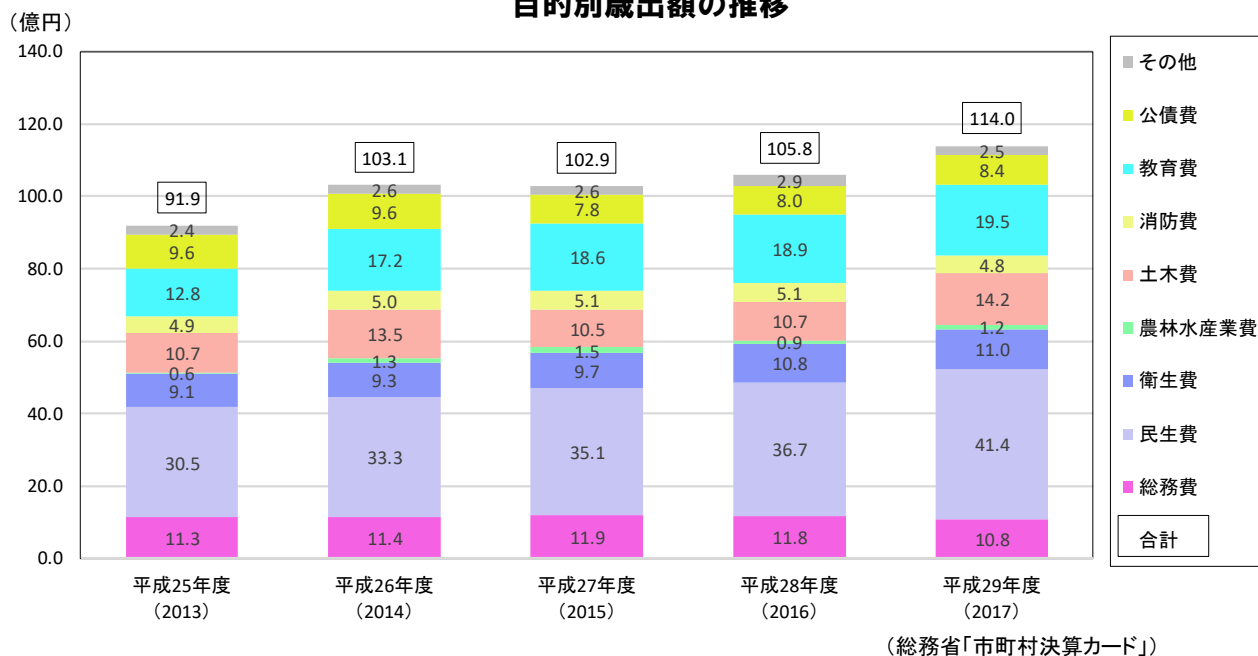


【歳出】

○平成 25～29 年の歳出額の推移をみると、歳入と同様に平成 27 年以降は増加しており、平成 29 年では 114.0 億円となっています。

単位：億円	平成25年度 (2013)	平成26年度 (2014)	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)
合計	91.9	103.1	102.9	105.8	114.0
総務費	11.3	11.4	11.9	11.8	10.8
民生費	30.5	33.3	35.1	36.7	41.4
衛生費	9.1	9.3	9.7	10.8	11.0
農林水産業費	0.6	1.3	1.5	0.9	1.2
土木費	10.7	13.5	10.5	10.7	14.2
消防費	4.9	5.0	5.1	5.1	4.8
教育費	12.8	17.2	18.6	18.9	19.5
公債費	9.6	9.6	7.8	8.0	8.4
その他	2.4	2.6	2.6	2.9	2.5

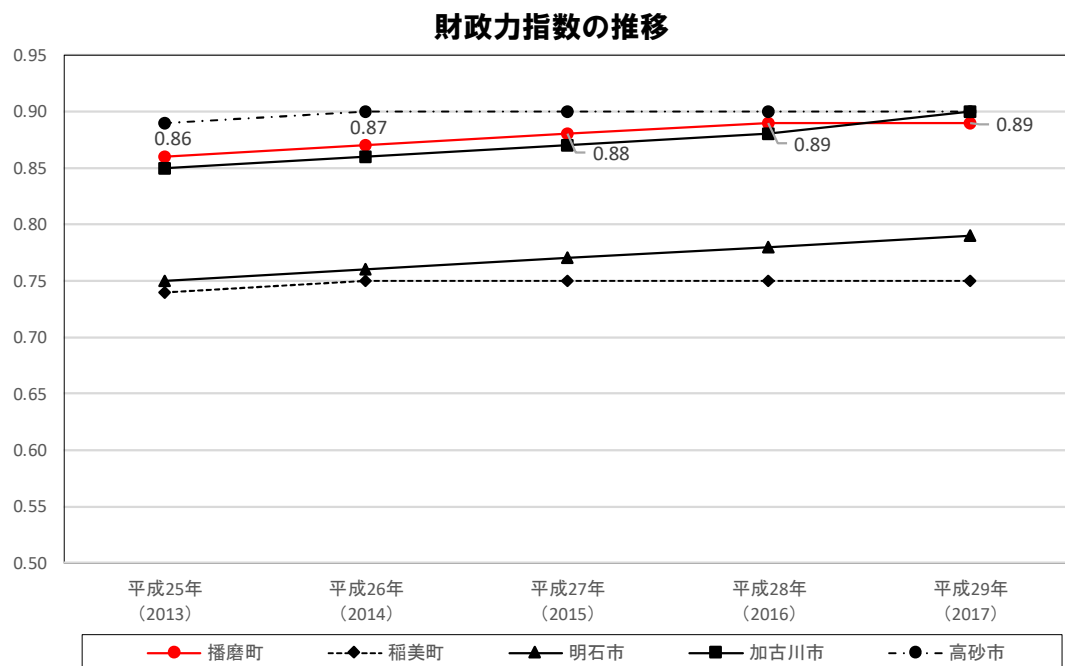
目的別歳出額の推移



【財政力指数】

- 過去5年間の財政力指数は緩やかに増加しており、平成29年には0.89となっています。
- 平成29年の財政力指数について県内の近隣市町と比較すると、最も高いのは加古川市、高砂市で0.90、最も低いのは稲美町で0.75となっています。

	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)
播磨町	0.86	0.87	0.88	0.89	0.89
稲美町	0.74	0.75	0.75	0.75	0.75
明石市	0.75	0.76	0.77	0.78	0.79
加古川市	0.85	0.86	0.87	0.88	0.90
高砂市	0.89	0.90	0.90	0.90	0.90



(総務省「市町村決算カード」)